

1. 「発掘調査だより」について

村北遺跡の発掘調査も佳境に入りました。今月も発掘調査だよりをお届けいたします。

この「発掘調査だより」については、市ホームページ (<http://www.city.agano.niigata.jp/so-shiki/gakushu/23743.html>) にも公開しています。合わせてご覧ください。



写真1 村北遺跡 空中写真（北から）

2. 調査のようす（発見された炉跡！）

8月から行ってきたA区の調査がほぼ終了し、9月30日にラジコンヘリによる写真撮影を実施しました。10月10日からは、調査範囲の東端、D・E区の調査を開始します。

A区では大きな発見がありました。

縄文人が暮らしていた住居の一部、炉（ろ）跡が発見されました（写真2）。炉は環状（直径約40cm）に石を配置した石囲炉（いしがこいろ）と呼ばれる形態で、真ん中には土器が置かれています。土器のなかには炭がたくさん詰まっています。発見された炉のまわりは直径約2mの掘り込みが確認されています。

この炉のもっとも大きな特徴は、配置されている石の種類です。炉のまわりに配置される石は、河原にある硬い石が用いられることが一般的ですが、今回発見された炉には大きな軽石が用いられています。たより8月号でもお伝えしたように遺跡からは軽石がたくさん出土します。村北遺跡に暮らす縄文人が容易に入手できる石であることは確かですが、炉に軽石を用いる事例は知られていません。

この炉跡は川跡の東縁で発見されました（写真3）。周辺では、埋設土器（まいせつどき）（写真4）、特殊なかたちをした香炉形土器など、お墓やマツリに関連したものが出土しています。ともに縄文時代後期中葉（約3,500年前）の土器であることが明らかになっています。埋設土器は、壺と鉢（2点）、合わせて3点の土器が並べた状態で埋められています。壺は赤色に塗られ、上下逆さまに埋められていました。



写真2 炉跡（A区 南西から）

3. これからの課題

川辺の小さな家で暮らし、近くにお墓を作ってマツリを行っていた村北縄文人のようすが少しずつ見えてきました。

しかし、現状でこれらの遺構・遺物がすべて同時にあったということは証明できていません。なぜならば、発見された炉跡の詳しい年代が明らかにできていないからです。今後は、発掘調査によって得られた考古学的な情報とともに、炉跡に残された炭の年代測定を行い、住居の詳しい時期を明らかにしたいと思います。



香炉形土器の例
(新潟市御井戸遺跡より出土)
巻町教育委員会 2003『御井戸遺跡I』より転載

写真3 A区で見つかった遺構 (A区 南東から)

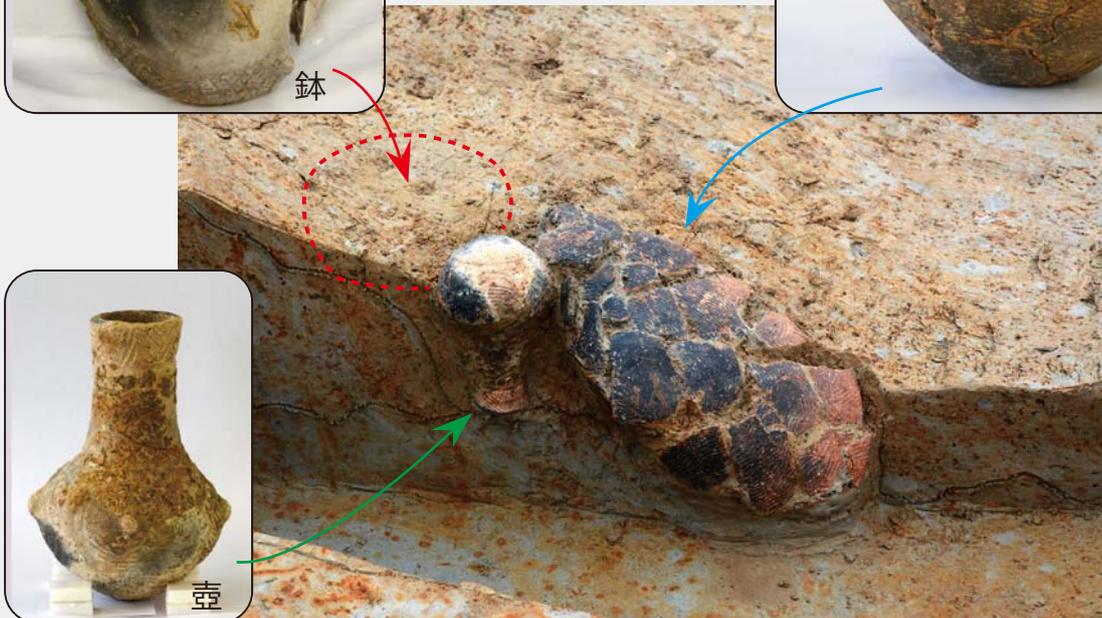


写真4 埋設土器 出土状況